

に、白っぽく光る現象の防止方法を見出すことを目的とする。

2. 同一番手で同密度の平織と綾織別珍を用いて、パイルのねる方向及びその逆の方向に裁断したスカートを着用して、各着用日数毎に摩擦部分について、光沢計により、光沢の度合いを求めると共に、視覚による判定を合わせて行なった。更にブラッシングとスチーミングにより、光沢のみだれを直しうるかどうかを試みた。

3. 別珍の地組織としての平織、綾織の差は、直接パイルのね具合、すなわち白っぽく光る現象は、視覚においてはほとんどみとめられない。パイルのねる方向に裁断した場合は、全体に白っぽい感じとなり、着用による光沢の変化は視覚ではみとめがたい。逆に裁断した場合は全体に黒っぽくなり、着用による光沢の変化が明らかに現れる。以上は測定した光沢度についても報告する。

上述した光沢の変化は、スチーミングとブラッシングの方向により相当消滅させることができた。

B-58 別珍の光沢に関する考察（第2報）

文化服装学院 小杉 直世

1. 第1報で着用日数による光沢の変化を検討したが、第2報では布目の方向が変わった場合、光沢がどのように変化するかを、着用日数との関連で検討すると同時